

## 第3章

# 計画の基本的な考え方

- 1 計画の将来像
- 2 2040年に向けたキーワード
- 3 2040年へのアプローチ
- 4 本市の地域包括ケアシステム

## 1 計画の将来像

●本市においては、平成24年度を地域包括ケア元年と位置付けて以降、高齢者一人ひとりが可能な限り住み慣れた地域で安全と安心に包まれ、いつまでも生きがいを持って自分らしく幸せな「生活」を送ることができるまちづくりを進めるため、計画の将来像を『住み慣れたまちで自分らしく生きる～高齢者にやさしい「わ」のまちひかり～』と掲げ、第8期計画まで連続性と整合性を維持するため、引き継いできました。

●本計画では、中長期的な視点から、計画が展望する地点を2040年に定めます。第8期計画までの連続性と整合性を維持するとともに、上位計画である第3次光市総合計画で展望する未来のまちの姿と整合を図ることとし、2040年に向けた将来像を次のとおり掲げます。

**住み慣れたまちで自分らしく生きる**  
～高齢者が輝く やさしさつながるまちひかり～

## 2 2040年に向けたキーワード

### キーワード1 『つながり』

●第8期計画では、新型コロナウイルス感染症の影響により人や地域のつながりが希薄となったものの、地域と行政の対話を深め各地域の特色に応じた互助の取組による「生活支援体制」や、介護予防サービス利用者への支援を多職種が連携し自立支援に向けた取組を検討する「地域ケア個別会議」について、感染対策等の制約を受けながらも着実に取り組んできました。

●こうしたつながりの再構築を図るとともに、引き続き、地域共生社会の実現に向け、地域や事業所、行政等の英知を結集し、「オールひかり」でこれまでの取組を更に進めていくことが重要です。

### キーワード2 『場づくり』

●各地域には、地域コミュニティ協議会を中心に、互助の取組を進める「地縁型のコミュニティ」と、認知症を支える会やスポーツ・趣味のような生涯学習活動などでつながる「テーマ型のコミュニティ」があります。

●一方で、新型コロナウイルス感染症の影響によりこうした場に集う機会が減少し、また、役員の高齢化や担い手不足により、活動の維持が困難なケースも生じています。

●引き続き、新たな人材を巻き込む取組など、高齢者のみならず、子どもや子育て世代をはじめ、世代を超えた「場づくり」の取組を進め、地域の活性化を図るとともに、住み慣れた地域で活動するための「場づくり」の促進が重要です。

### 3 2040年へのアプローチ

#### (1) 将来像の実現に向けたアプローチ

- 介護サービスの充実や高齢者を支える互助の取組を更に進めるため、第8期計画を引き継ぎ、第9期計画の重点目標を「**地域包括ケアシステムの深化・推進**」とします。
- 計画の将来像、2040年に向けたキーワード、重点目標を踏まえ、第8期計画で定めた3つの施策の柱を軸に、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法（以下「認知症基本法」といいます。）」の制定など国の動向を踏まえながら2040年を展望した施策の展開を図ります。
- 持続可能な社会の実現を目指すSDGsの理念を取り込み、多くの市民や団体とともに、いつまでもやさしさつながるまちの実現を目指します。

#### 施策の柱1 地域生活支援プログラム

～住み慣れた地域で安心して暮らせる社会～



- 1 医療介護連携システムの推進
- 2 地域包括支援センターの機能強化
- 3 高齢者支援システムの構築
- 4 介護サービス基盤の強化充実と持続可能な制度運営

#### 施策の柱2 認知症サポートプログラム

～高齢者の尊厳を保持しつつ穏やかに暮らせる社会～



- 1 認知症を予防し、早期発見・対応を図る
- 2 認知症を理解し、地域で支える
- 3 権利擁護体制の充実
- 4 認知症高齢者等に対する包括的・継続的な支援体制の整備

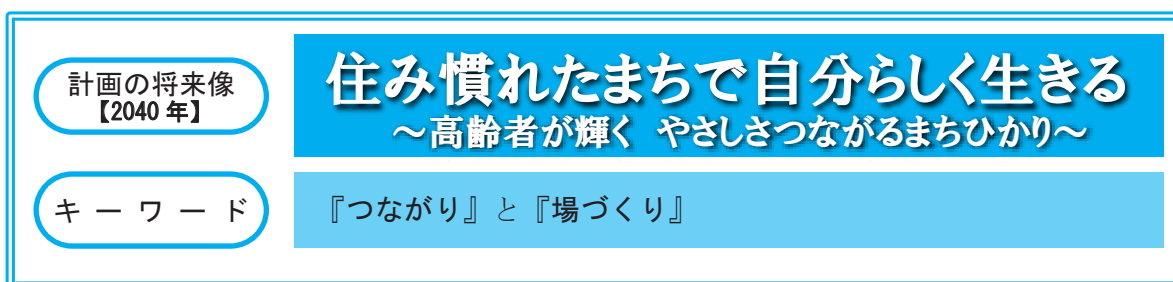
#### 施策の柱3 生きがい実感プログラム

～主体的に活動し生き生きと暮らせる社会～

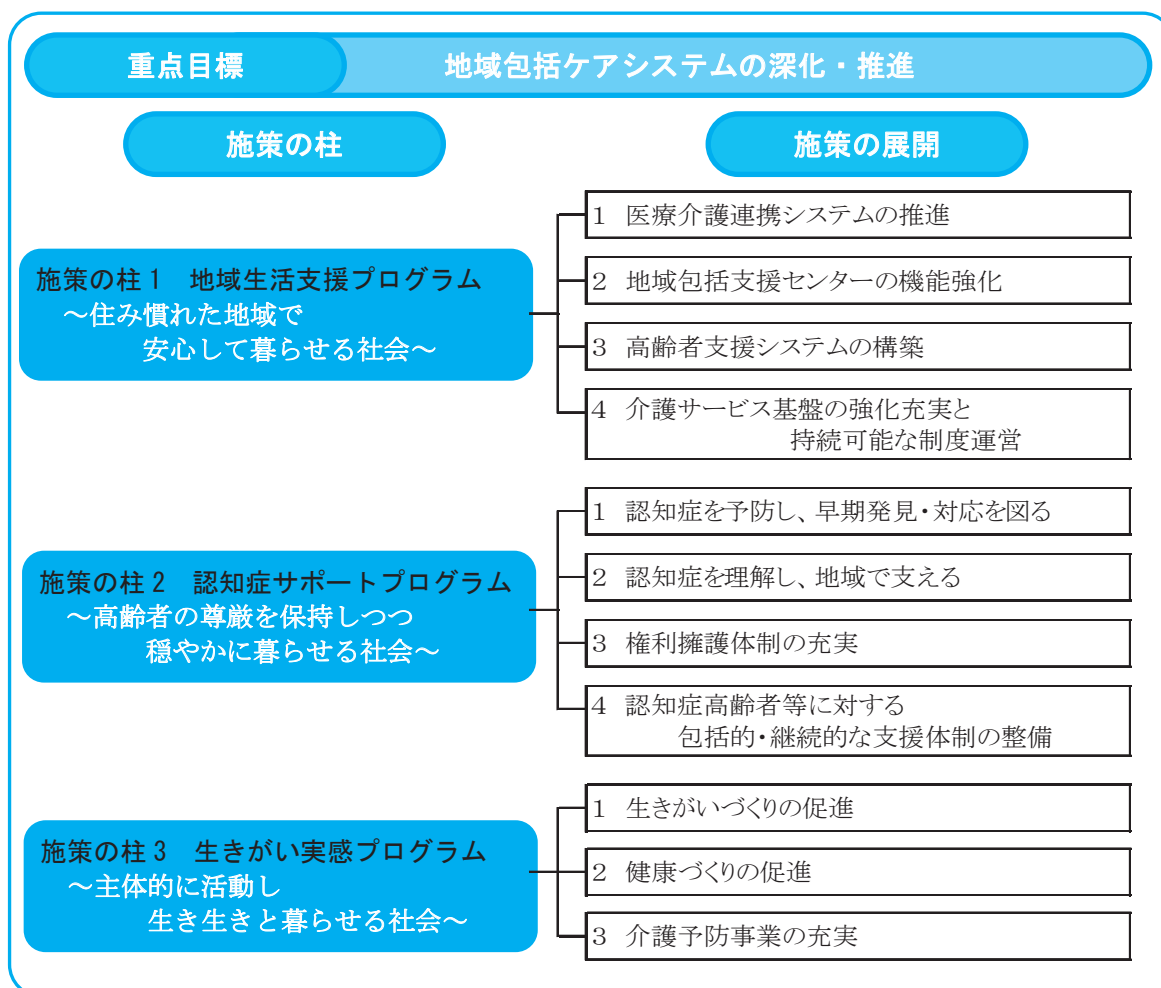


- 1 生きがいづくりの促進
- 2 健康づくりの促進
- 3 介護予防事業の充実

(2) 体系図



～2040年を展望した展開～



#### 4 本市の地域包括ケアシステム

●高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、医療や介護を含めた様々な生活支援などのサービスを包括的かつ継続的に提供できる仕組みを目指します。

